

否定することになりかねません。

今、世界が地球時代を向かえグローバリズムの主張の一方でローカリズム、自民族、自国優先主義という相反する主張があります。私たちは、日本社会が自民族、自国優先主義の傾向が高まっていることを、2001年から4年ごとに繰り返される中学校の歴史教科書問題が再燃するたびにひしひしと感じています。また、私たちは、日本がグローバルな世界、アジアの時代に目をむけた次世代の育成を願い、事実に基づいた歴史を語り教える認識を育むことが何よりも重要なことであると思います。

以上のような認識から、私たちは去る3月に文部科学省が検定合格させた、いわゆる「新しい歴史教科書をつくる会（つくる会）」主導の自由社版中学校歴史教科書と、つくる会の分派により立ち上げた「日本教育再生機構」主導の育鵬社版中学歴史教科書について異議を唱えるものです。この両社の歴史教科書は、「アジアを蔑視し、過去の過ちを合理化・美化する歪曲された歴史認識に基づく歴史教科書」であるとして、私たちは教科書採択の年ごとに在日韓国人の保護者の立場から、全国的に望ましい歴史教科書の採択を求める運動を推進し、両社の教科書不採択を強く要望してきました。

私たちは、日本の教育現場に子どもを送る在日韓国人の親の立場と、1985年の日本国籍法改定に伴い日本国籍になった同胞子弟、さらには在日外国人の子どもたちも日本の教育現場で学ぶという現状に鑑み、今年度の公立中学校歴史教科書採択においては、正しい歴史観に立った望ましい歴史教科書の採択を望むとともに、偏った歴史観を持つ自由社版・育鵬社版歴史教科書を採択しないよう強く請願する次第です。

【請願事項】

一、自由社版歴史教科書は237カ所、育鵬社は150カ所の文部科学省による検定意見がつけられ、それらを修正した上で合格が下されております。この事実を直視するとともに、問題「教科書」の中身を充分に吟味され、これを採択しないように請願いたします。

二、両教科書共に問題部分を一例挙げれば、「日露戦争での日本の勝利により、植民地支配のアジア・アフリカの民族に独立の希望を与えた」という表記になっております。当時日本は朝鮮を植民地化しており、日露戦争の勝利は、朝鮮に独立の喪失をもたらしたわけです。

この問題部分の記述は、日本の一方的な側面でのみ語っているといえ、朝鮮の植民地支配についての反省がまったく欠落しております。

韓日にとって不幸な歴史をいまだに正当化するこの「両教科書」の存在そのものが、真に友好親善を願う韓日両国民にとってマイナスでしかありません。問題教科書が二度と外交問題に発展しないよう、不採択を請願いたします。

三. 2009年の横浜市教育委員会の教科書採択において、横浜市が条例で設置した機関である教科書取扱審議会の答申を無視するばかりか、教科書採択の精神である「公開会議」「開かれた採択」による採択手順も無視し、教科書審議・採択を無記名で投票させるなど、前代未聞のあってはならない行為で、戦争賛美、アジアへの侵略を肯定するつくる会主導の自由社版歴史教科書を強行採択しました。

日本で最も国際的であると言われる横浜市のこのような恣意的な行為を正す意味においても、貴教育委員会の教科書採択においては、厳正で公正な採択を行うよう請願いたします。

四. 必要以上に過去にこだわるのではなく、少なくとも歴史から何かを学び、それを未来につなげて行くことが、現代を生きる私たち保護者の務めとして捉えるならば、望ましい歴史認識に基づいた「歴史教科書」が採択され、使用されることが何よりも必要です。もしも感受性の豊かな中学生たちに、偏った歴史認識に基づいた「歴史教科書」が使われた場合、不幸なことに在日韓国人及び在日外国人の生徒には不要な劣等感を与え、日本の生徒たちには偏見を植え付けてしまいかねないと危惧致します。

このようなことから私たちは、グローバルな世界観と、アジアの相互理解に役立つ歴史認識を育む「望ましい歴史教科書」が採択されますよう、ここに請願致します。